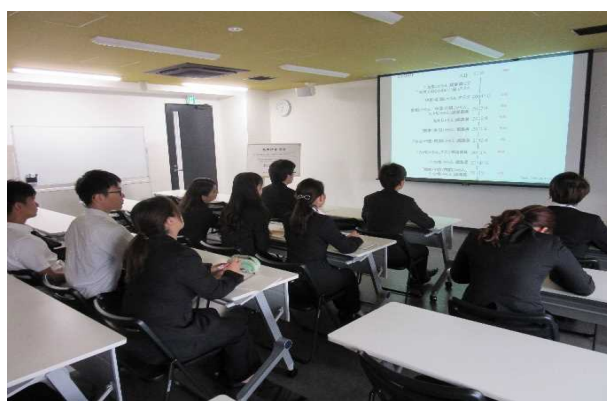


「若旅★授業」滋慶おもてなし＆ブライダル・観光専門学校(2017.9.5) 実施報告

近畿運輸局第7回目の「若旅★授業」を、平成29年9月5日(火)に滋慶おもてなし＆ブライダル・観光専門学校のトラベル＆レジャー科14名の生徒を対象に実施しました。講師として、株式会社リクルートライフスタイル企画統括室編集統括部九州じゃらん編集長の長田佳子さんをお招きし、『未知の世界へ飛び出そう！現在の「旅行」・これからの「旅行」』をテーマに授業をしていただきました。

長田さんは、2000年に株式会社リクルート(現リクルートライフスタイル)に入社後、「九州じゃらん」など全国(北海道を除く)のじゃらんの編集に携われ、日本全国各地でお仕事をされてこられました。授業内容として、(1)未知の世界へとびだそう、(2)現在の「旅行」、(3)これからの「旅行」という柱に分け、順番に話されました。

まず、長田さんは、これまで世界41の国と地域を訪問し、また、日本国内では、茨城県を除くすべての都道府県に行かれたと話されました。



そこで、長田さんが訪れた国や地域を、それぞれの国旗を見て答えるというクイズ形式に生徒さんが挑みましたが、ほとんどの国がわからないという結果でした。

次に、長田さんが良かった場所(国)ベスト3として、世界4大文明地のひとつである「イラン」、映画『魔女の宅急便』のキキが飛ぶ街のモデルとなった「クロアチア」、日本人所有の島で6人しか泊まれない小さな小さな「ジブチ島」をそれぞれ美しい写真で紹介されました。次に、旅でのハプニングワースト3として、チベットで苦しんだ高山病、スマトラ島沖地震遭遇、フランス・ニースでの盗難事件など、その時の状況やエピソードと共に紹介していただきました。何が起るかわからないということも旅の面白さであると話されました。これから行ってみたい場所(国)ベスト3は、ダイビング(泳げない私も資格を取った)をしに行きたいと思っている美しい海の「バハマ」。渡航手続きがむずかしい国であるが行ってみたい「ブータン」、そして、珍しい植物だらけの「イエメン」を挙げられました。

そして、メインテーマとして、長田さんが旅に出る理由、そしてみなさんに旅に出てほしい理由についてお話しいただきました。一つ目は『五感で感じる』ということ、自然が作り出す景観などの凄さと、新たなモノを生み出す人間(人工)の凄さを五感で間近に感じることができる点。二つ目は『多様性』に出会う、「全然違う」と「あまり変わらない」所変われば習慣も文化も違うということを体感できる点、例えば、インドのガンジス川では死体が流れてくることもあるが、そこで人も沐浴するというような場面に出会うなど。3つ目『対応力』ができる点、とにかく「思い通りにならないこと」に直面することが多く、それを繰り返すうちに、突発的な場面や事項に対しても判断し、対応していかななくてはならず、結果として、日常生活での突発的な出来事に驚かなくなる、仕事においても多少のことなら平気でこなせるようになってきたことを話されました。一回や二回ぐらいの旅ではなかなか感じられない、今までに豊富な経験を積んでこられた長田さんならではの実感と説得力あるお話を聞くことができました。

次に、これからの地球規模の人口推移が世界にどのような影響をもたらすかという大変興味深い話に入りました。現在、メディア等を通じてアメリカの情報はどんどん入ってくる一方で、例えばナイジェリアとかインドといった国々の人のことやくらしぶりなどあまり伝わってこないこと、現在、日本は世界である程度知られた国であるが、今後、地球の人口は増加していく中で、世界11位の日本の人口が、2050年には16位までに下がっていると考えられ、その頃にはひょっとすると、日本人というものが珍しい存在になり、世界の中で日本があまり知られていない時代が来るかもしれないとも話されました。状況によっては、世界の国々の人口構成が変わることによって、仕事の内容なども変わっていく可能性があるとも話されました。



次に、いろんなデータを紹介（クイズ形式）し、二つ目の『現在の「旅行」』の状況について説明されました。①日本人は少しずつ旅行に行かなくなっていること。②インバウンドの観光客が急増しているが、日本人による国内観光の消費額の方がはるかに大きいこと。③生活の中でのお金の使い方が変わってきたこと、といったことをまとめながら説明されました。

最後の柱『これからの「旅行」』についてでは、現在の社会動向等を分析しながら、プランの中にこういったものを盛り込めば、参加したくなるようなツアーにできるのかということ、生徒さんにも一緒に考えてもらいました。

現在のカスタマートレンドとして、①盛り文化（アプリ『Snow』人気）、②ノスタルジック消費、③ソーシャライジング、④記念消費、⑤一点豪華主義、⑥多様性・LGBTがあることを説明し、長田さんは、生徒さん全員のアイデアを聞いて回られました。そして、こういったトレンドを組み込むことや活用することで、減少（衰退）傾向の旅行を少しでも盛り上げることができればと考えているとも話されました。長田さんの素晴らしい授業に、最初から最後まで全員が熱心に参加し取り組んだ素晴らしい90分でした。

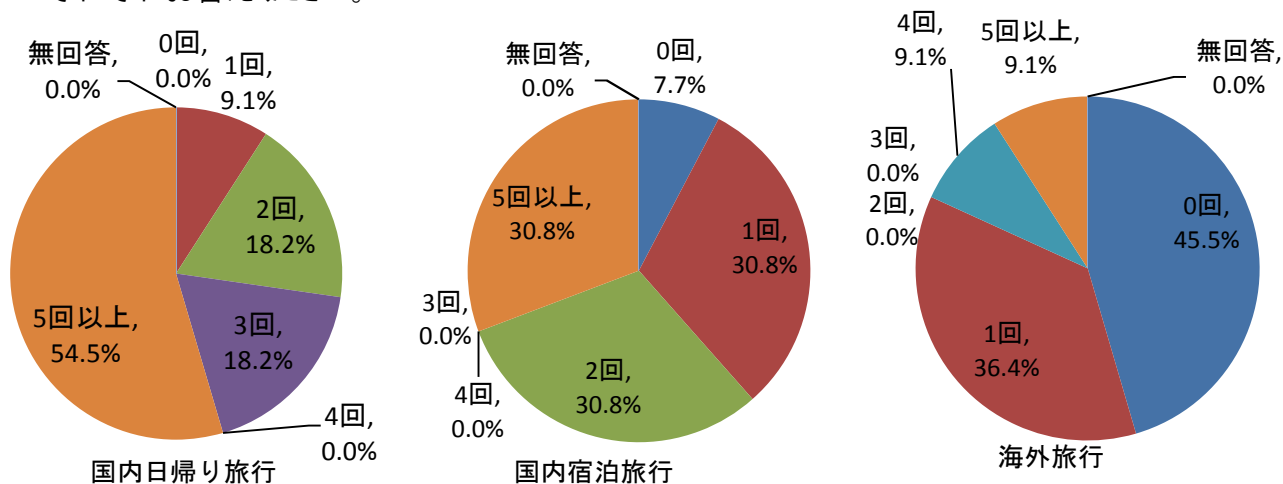
余談ですが、今回の授業をきっかけとして、(株)リクルートライフスタイルさんと同校の連携プロジェクトということで、今後約半年間を掛けて、生徒さんが課題に取り組むことになりました。

若旅★授業(滋慶おもてなし&ブライダル・観光専門学校2016.2.15)アンケート結果概要

○事前アンケート

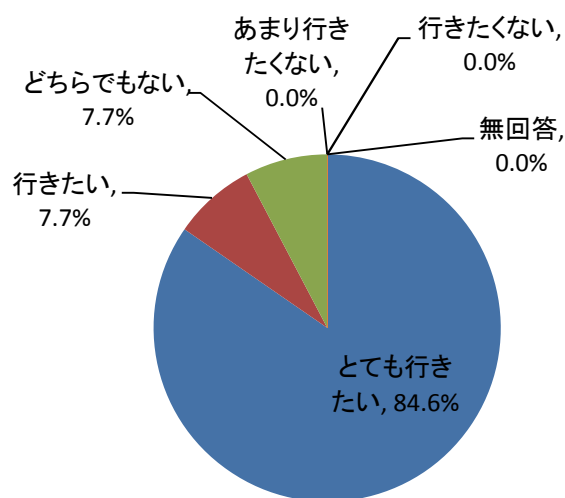
【授業を受けた生徒さんのアンケート結果】(n=14)

- (1) あなたは年に何回程度、国内旅行(日帰り・宿泊)および海外旅行をしますか。
それぞれお答えください。



- (2) 国内旅行に対する意欲を教えてください。

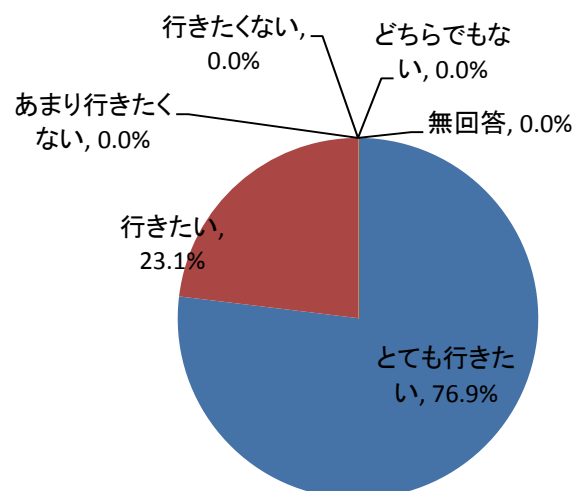
「とても行きたい」「行きたい」の回答を合わせると92.3%という数字になりました。
「あまり行きたくない」と「行きたい」という回答は0%でした。



- (3) 海外旅行に対する意欲を教えてください。

海外旅行については、100%が行きたいと回答してくれました。(「とても行きたい」が76.9%、「行きたい」が23.1%)

さすがに、観光関係の専門学校の生徒さんです。



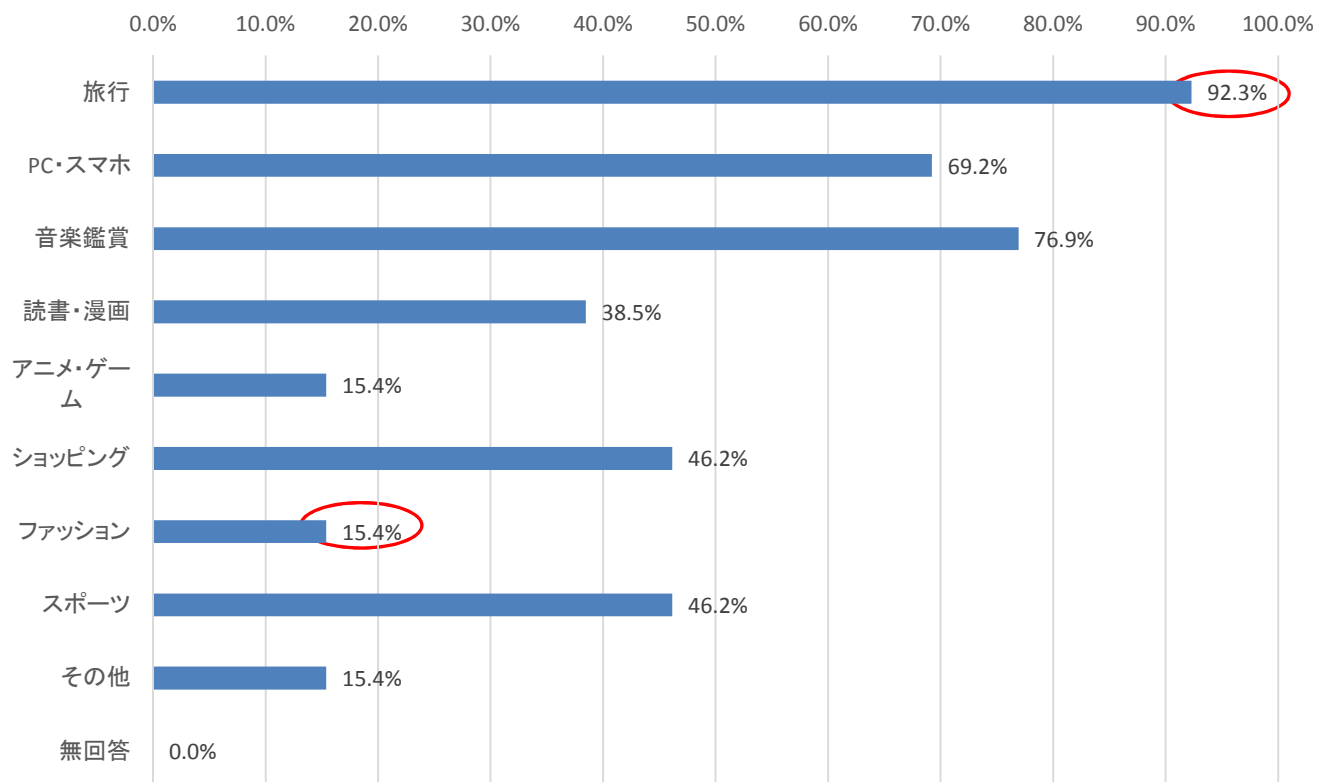
(4) 行ってみたい旅行先や旅のスタイルを教えてください。

行ってみたい旅行先については、国内では北海道(1)、東北(2)、広島(1)、九州(1)、沖縄(2)ということで、全国的に広く興味を持っていることがわかりました。

海外では、ヨーロッパが一番多く、特にフランス・イタリアというところが挙がっていました。次いでアジア圏の韓国、台湾、タイ、シンガポールというところでした。

また、旅のスタイルでは、一人旅(5)、次いで女子旅、家族旅の順でした。日帰りよりは宿泊(1泊2日、1週間、1ヶ月、長期 など)という回答が多かったです。

(5) あなたの趣味を教えてください。【複数回答可】



「旅行」が92.3%と大変高い数字になっています。一方、「ファッション」は15.4%とかなり低い数字となっています。

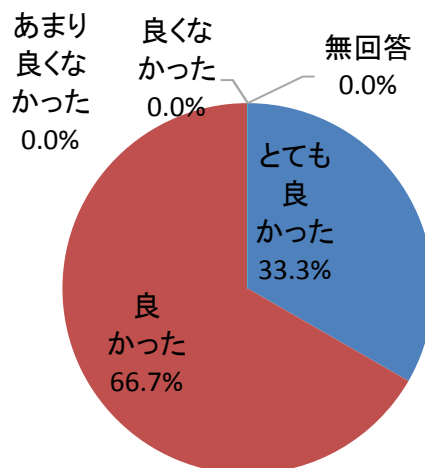
観光系の専門学校ということもあり、「旅行」はやはり高い数字ですが、一般的には若者の趣味として高い数字の「アニメ・ゲーム」と「ファッション」が15%台というのは、意外に低い数字でした。

○事後アンケート

【授業を受けた生徒さんのアンケート結果】(n=37)

(1) 今回の講演はいかがでしたか

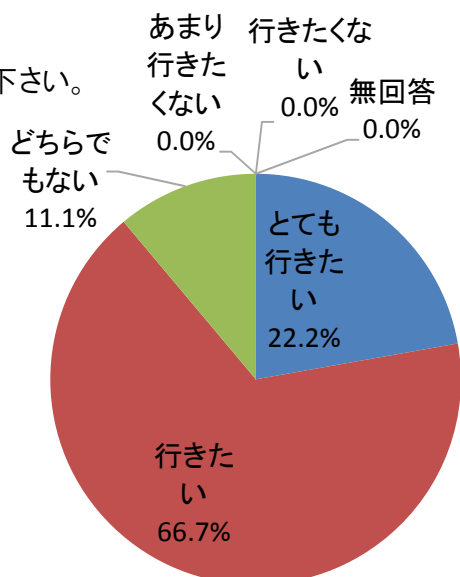
全員(100%)が「とても良かった」「良かった」と回答してくれました。歴代史上初の数字です。素晴らしいですね。



(2) 講演を聞いた後の、国内旅行に対する意欲を教えてください。

今回の「若旅★授業」を受けて、22.2%の生徒さんが「とても行きたい」、66.7%の生徒さんが「行きたい」と答えてくれました。

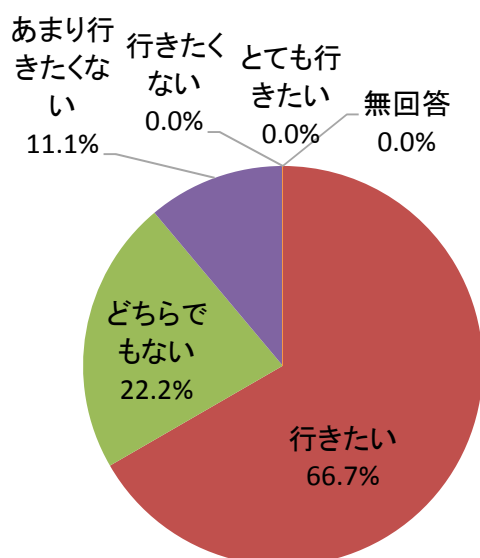
講演前の回答と比較すると、「どちらでもない」が11.1%から7.7%に変化しました(3.4%減)。



(3) 講演を聞いた後の、海外旅行に対する意欲を教えてください。

今回の「若旅★授業」を受けて、66.7%の生徒さんが「行きたい」と答えてくれました。

講演前の回答と比較すると、「とても行きたい」、「行きたい」と答えた学生さんの合計は減りました。これは、先生のいろんなハードな体験を聞き、少し不安感も持ったのかもしれませんが。



(4) 講演で特に印象的だったことを教えてください。

- 講演者の海外旅行の経験について。
- 今、流行っていることを取り入れたツアーを考えること。
- 『注目のカスタマートレンド6選』について印象的だった。
- 今、流行っていることに対して印象深いです。それに基づいて今後の流行りを調べて理解していきたいと思います。
- 自分の知らなかったツアーの種類をたくさん聞くことができた。
- 若者の旅行離れがあるということ。
- 元気な顔で話していたこと。

(5) 講演でこんなことをもっと聞きたかった、こんなことをしてみたかったということがあれば教えてください。

- 海外旅行で色々な国を回ってみたいと思いました。

(6) どのような取組を行ったら、若者が旅行に出ると思いますか。

- アニメの聖地めぐりツアー
(若者世代を中心にアニメの人气が高まっているため)
- 「フォトジェニック」な旅
(綺麗な景色やものを撮って、SNSなどで挙げられるのは若者の興味を引き出せます。)
- ドラマの撮影地巡り
(私の友達が行き楽しそうだったし、インスタ映えも間違いなし！)
- 低コストなツアーで若者に人気な多くのスポット巡れるようなツアーがよいと思います。
(若者の中で流行っているから。)
- 若者の旅行を研究。どんなことが今の若者にウケ、非日常感を味わえるのか。
(若者は旅行が好き。ワクワク、ドキドキ感が必要。)
- ネットで情報収集(デジタルだから。)
- フォトジェニックなことがすごく流行っているので、取り入れてみればよいかなと思います。
(若者は流行ってることをするのが好きだから。)